

2020/02/17 (月)

朝の礼拝

聖書 創世記2章18節 (旧約聖書3頁)

主なる神は言われた。

「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう。」

助ける者

私は留学中、学校の寮に住んでいました。緑多いキャンパスには全面ガラス窓の大きなダイニングがあり、そこで週末を除いて朝昼晩の食事ができました。ある日ダイニングへ向かう途中で、窓の外にホームレスの人が徘徊しているのが見えました。気づくと彼はすでに食事の列に並んでいました。同じ寮生がそっと中から鍵を開けて招き入れたのです。

クリスマスが近づいた頃でした。アメリカではクリスマスは家族で教会へ行き家族で祝いますから、寮生は次々帰省して人気はなくなり、寮のダイニングも閉じて寒々となりました。

イブの深夜、近くの教会の礼拝に独りで出席しました。薄暗いチャペルに祭壇のクワイヤーだけが浮かび、キャロルの歌声が響きました。でも一人の帰り道はとても暗く、寒かったのを覚えています。

翌朝、目を覚ますと、私の部屋の床にクリスマスカードが幾つもあるのに驚きました。私が寝ている間に扉の下の隙間から届けられたものでした。独りで迎えたクリスマスでしたが、神様があなたは独りではないよと教えて下さった瞬間でした。

人間には独りでいることが必要な時もあると思います。それは神様が共におられることを知るためです。そして神様は必要な時に、必要な人を「助ける者」として出会わせて下さいます。そうして人間はなぜ造られたのかを互いに知るのでしょうか。

(しばらく黙祷しましょう)

祈禱 祈りましょう

わたしたちを愛し、励まされる主よ。

あなたは人を互いに「助ける者」として造られました。私たちが困難に向き合う時、互いに愛し仕えることができますようにお導き下さい。特にいま中国をはじめ世界各地で多くの人たちが新型コロナウイルスの感染に苦しんでいます。どうかご家族、医療看護に従事されている方々に励ましを与え、回復へお導き下さい。

また英和で英語教育のため献身して下さったアリッサ・ローハン先生が今週 20 日に退職され、故郷のアイランドへお帰りになります。先生のご指導と交わりに感謝しますと共に、新しい生活の上にも神様の祝福をお祈り致します。

どうか今日一日もすべてをあなたに委ね、英和生が互いに励まし喜び合い、祝福の下に過ごせますように。

主イエス・キリストによってお願い致します。アーメン